

アソカ講話040

テーマ「やさしい時間を生きる」

読書会で感じた静かで優しい時間を紹介したい。小さな人生論 2 巻 4 章に「喜怒哀楽」というテーマで次の言葉が紹介されている。

「喜怒哀楽に満ちているのが人生である。喜怒哀楽に彩られたことが次々に起こるのが人生である。だがその表面だけをすくい取り、手放しで受け止めてはなるまい。喜怒哀楽の向こう側にあるものに思いを馳せつつ、人生を歩みたいものである。その時人生は一層の深みを増すだろう。我々が人間学を学ぶゆえんもそこにある」と。

この文章は母の愛に気づき立ち直ったエピソードに付け加えられたものである。私達は、日頃、両親の愛にどれだけ気づき感謝しているだろうか。当たり前と思い、やり過ごしていることがないだろうか。ある参加者がこう語った。「この文章を読んで、母がお弁当を作ってくれたことに感謝したことがあるだろうか、ありがとうと感謝の言葉を言っていたらどうかと振り返ることができた」と。その真心のこもる言葉に参加者全員の心が洗われ、優しい時間が流れるのを感じた。何気ない日常の愛に気づくことが、心を豊かに優しくしてくれる。「この世に当たり前ということはない」と気づき、感謝して生きることが、やさしい時間をもたらしてくれるのだ。